

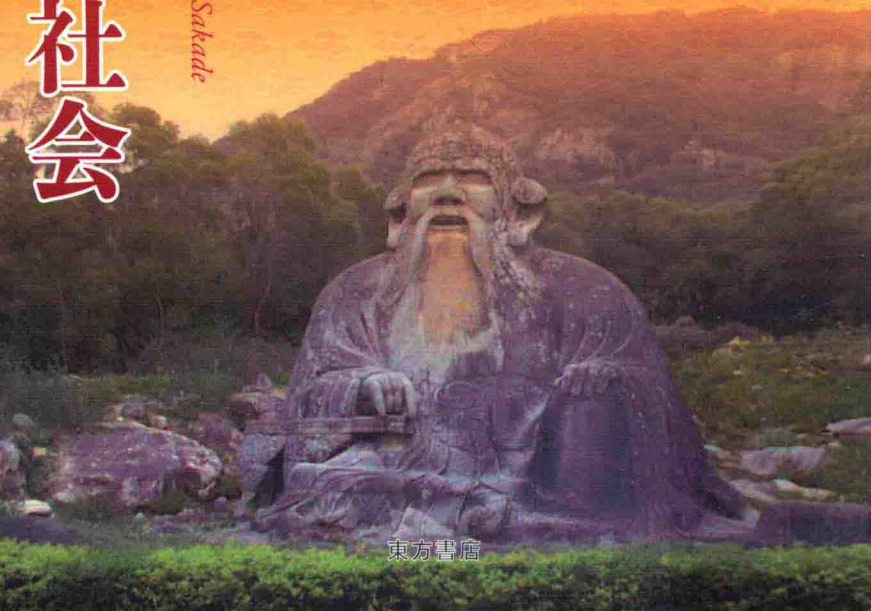
道教と 東南アジア華人社会

坂出祥伸

Yoshinobu Sakade



その信仰と
親族的結合



東方書店

常州大学圖書館
藏書章

坂出祥仲
Yoshinobu Sakabe

道教と
東南アジア華人社会

その信仰と
親族的結合

著者略歴

坂出祥伸（さかで よしのぶ）

1934年、鳥取県に生まれる。大阪外国語大学中国語学科卒業、京都大学大学院文学研究科修士課程（中国哲学史）修了。関西大学文学部教授を経て、同大学名誉教授。森ノ宮医療大学教授。文学博士。日本道教学会元会長、名誉理事。人体科学会顧問など。主な著書に『道教と養生思想』（ぺりかん社、1992年）、『「気」と道教・方術の世界』（角川選書、1996年）、『道家・道教の思想とその方術の研究』（汲古書院、2009年）、『道教とはなにか』（中公叢書、2005年）、『日本と道教文化』（角川選書、2010年）、主な訳書に『道教と中国文化』（葛兆光著、東方書店、1993年、監訳）、『老子と道教』（M・カルタンマルク著、人文書院、2001年、共訳）、編著『道教事典』（共編、平河出版社、1994年）、その他多数。

道教と東南アジア華人社会
その信仰と親族的結合

二〇一三年六月十日 初版第一刷発行

著者 ● 坂出祥伸

発行者 ● 山田真史

発行所 ● 株式会社東方書店

東京都千代田区神田神保町一―三 一〇一―〇〇五

電話〇三―三二九四―一〇〇一

営業電話〇三―三九三七―〇三〇〇

装幀 ● 加藤浩志（木曜舎）

印刷・製本 ● （株）シナノパブリッシングプレス

定価はカバーに表示してあります

© 2013 坂出祥伸 Printed in Japan

ISBN9784497212078 C0039

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

恐れ入りますが直接小社までお送りください。

㊤ 本書の全部または一部を無断で複製複製（コピー）することは著作権法での例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は日本複製権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。
小社ホームページ〈中国・本の情報館〉で小社出版物のご案内をしております。<http://www.toho-shoten.co.jp/>

東南アジアの華人街を歩くと、やたらと目につくのは、道教の宮廟と宗親会の看板であろう。仏教寺院なら日本人だれでも知っているが、道教という宗教のことはほとんどが知らない。ましてその宗教施設としての「宮廟」とか「道観」のことは知らないで普通であろう。もうひとつ、「〇〇宗親会」「〇〇聯宗会」という看板はバンコク、マレーシア、シンガポール、マニラなどの華人街ではどこにでも見かけられる。大学で中国語、中国文学を勉強したという人でさえ、それらが宗族そうぞくという同姓一族の扶助親睦組織だと思いいたる者はあまり多くはないであろう。

本書の書名の副題に「親族的結合」としたのは、本来なら「宗族的結合」とすべきところ、「宗族」という語と意味は日本の一般読者には理解できないので、親族とは少々違ってゐるけれども、この方が理解しやすいだろうと「親族的」としたことを先ず了解していただきたい。例えば、鄭氏という同姓ならば先祖が同じだとして「鄭氏世界宗親会」という世界的規模の結合組織さえ現に成立しているのであるが、日本でたとえば田中氏は皆先祖が同じだとして全国田中氏親族会を結成しようなどと叫んだら気

が狂っているのかと思われるであろう。

東南アジア各地域に華人街があることは東南アジア研究者でなくても旅行者でさえ知っているし、観光ガイドブックにも簡単ながら記されている。しかし、そこには食べ物と買物、観光スポットだけを出てくるが、寺廟についてはほとんど説明されていない。観光客の望みがそうであろうからやむをえないであろうか。

そこで筆者は本書で、華人街では道教信仰の厚いことと宗族的結合力の強いことに特に焦点をあてて華人たちの生活のしかたを紹介しようと思う。目次にあるように、先ずは道教とはどういう宗教なのかを儒教と比べて紹介し、次いで宗族とはどういう組織でどのような役割りを果たしているのかを紹介する。その後で、東南アジア各地の実例の中で、道教と宗族の実態を紹介する。

筆者の願いは、商用、観光などを目的とされる時に、料理や観光スポットのほかに、寺廟のこと、宗祠のことを少しでも知っていただくことである。もし現地で華人と話されるとか、家に招かれる機会でもあれば、一族のご先祖さまのことを尋ねるとか、寺廟に祀られている神像の素性などをちよつと尋ねられれば、きつと誇らしげにお話しくださるにちがいない。大切にされている宗譜そうふでさえ見せていただけるかも知れない。そういうことで親密の度合いも深まるにちがいないと思うのである。寺廟に祀られている神様のことでも、日本人が神社の神様のことをほとんど知らないのとは違って、少々年輩の人なら神様の素性はほぼ承知されている。華人は私たち日本人と同じ容貌をしているのであるが、文化的歴

史的背景がまったく異なっている。このことに、どうか気づいていただきたい。これが筆者の最終的な願いである。

これまで東南アジア華人街について紹介したガイドブックは、山下清海氏の名著『東南アジアのチャイナタウン』（古今書院、一九八七年）をはじめあるにはあるが、それほど多くはない。といっても幾つかは出版されている。それぞれに興味深い内容で大いに参考になる。

近年、『文藝春秋』誌の一九九七年七月号から一九九八年六月号までの十二回、「中華世界」と題する特集連載を組んで、世界十二箇所の華人街を紹介した。解説は游仲勲、写真・文は松村映三。これは日本的一般読書人にかなりインパクトをもって、世界各地に散らばって実力を発揮している華僑華人のたくましい実相を伝えたといえよう。私も興味をもってその拡大が想像以上なのに驚いた。だが、彼らの拡大分布を推進したのが宗教や宗族だという観点が示されていないのを残念に思った。

また、近年は『華僑・華人事典』（弘文堂、二〇〇二年）、『東南アジアを知る事典』（一九九九年新訂増補、平凡社）が出され、中国でも、『華僑華人百科全書・社区民俗卷』（中国華僑出版社、二〇〇〇年）も出版されて、研究も活発になっている。

しかしながら、筆者のように宗教を中心に東南アジアを観察すべきだと考える者にとつては、大いに不満である。というのは、こうした華人街の形成が、彼ら華人の信仰する宗教——特に道教あるいは民間信仰を核として始まり展開するという観点からすれば、前記の諸著作や辞典いずれも、道教はもちろ

ん仏教や民間宗教についての説明がほとんど欠けているのである。その理由は、想像するに道教や民間信仰は低俗なものという日本、中国の学者の観念が反映されているのであろう。

こういう観点については、全体的な感想ともいふべき「東南アジア華人社会の道教信仰と宗族的結合」で詳しく論じているのを、どうか参照していただきたい。

二〇一三年春

筆者

道教と東南アジア華人社会❖目次



❖本書関連地図

第1部 道教とは、宗族とは

1 道教とはなにか	5
-----------	---

2 民間における儒教と道教	29
---------------	----

3 宗族とはなにか	47
-----------	----

「孝」は宗族制における実践規範

宗族と宗譜

むすび

4 宗族と復讐	65
---------	----

はじめに

一、宗族の団結Ⅱ繁栄

二、宗族の競争Ⅱ復讐(械闘)

三、呪符による守護

むすび

第Ⅱ部 各地の道教と宗族

1 バンコク・ペナン・マラッカ・クアラルンプール華人街の道教

.....

89

一、バンコク華人街の宮廟

大本頭公廟／新本頭公廟／本頭媽廟／報德善堂／呂帝廟／玄天上帝廟

二、マレーシア華人のなかの道教

清水祖師／天公壇／拿督公／和勝宮／北添宮／真空教道堂／南天宮／

仙師四師宮／宗賢堂／宗聖堂／玄真胡道院

三、マレーシアの福建会館、呪符

2 シンガポール華人の住居・墓地・会館・宮廟

.....

117

一、建築

シヨップハウス／五脚基／高層建築

二、墓地

三、会館、公会・総会、宗祠

四、道観宮廟

城隍廟／金蘭廟／麟山亭／大伯公／東嶽大帝／玉皇殿／玉皇大帝／

孔子公／鳳山寺／保赤宮の「開漳聖王」

五、シンガポール道教総会

【附】華郷としての厦門・泉州・香港の道教と宮廟

厦門で(保生大帝祀る青礁慈濟宮・蕭望之を祀る富美宮)／香港で(省善

真堂の扶乩)

137

3 マニラ華人街の道教・同郷会館・宗親会

宝泉庵正炉／石獅城隍廟／天后宮／青陽石鼓廟／九霄大道觀／大道玄

壇／泰玄都総壇／臨濮堂宗祠／華僑義山

149

【附】華郷としての晋江、厦門の道教と墓地

崇真殿／宝泉庵

173

【附】マニラ華人社会の結合力——同郷会館・宗親会——

4 金門島と鹿港の道教宮廟

金門島の宗祠・家廟／金門島再訪(鎮宅呪符)／鹿港の宮廟(玉渠宮)と

189

店屋

179

総括 東南アジア華人社会の道教信仰と宗族的結合

——タイ・マレーシア・シンガポール・フィリピン——

201

あとがき

209

初出一覧

212

道教と東南アジア華人社会

その信仰と親族的結合



編集協力 加藤浩志（木曜舎）

第I部

道教とは、宗族とは

